



## 俊英NOW

### ● 学習合宿



夏休み学習合宿は、2泊3日、涼しい飯綱高原で行われました。難関大学等の現役合格をめざし、真剣に頑張りました。私も、世界史講座を担当しました。

### ● ソフトテニス三重インターハイ出場



団体男子は、群馬代表の前橋商業と対戦。残念ながら3-0で敗退。各ゲームは接戦で、内容的には互角でした。男女3ペア個人戦も、1回戦で惜敗。でも全国大会出場は見事、今後につなげて下さい。

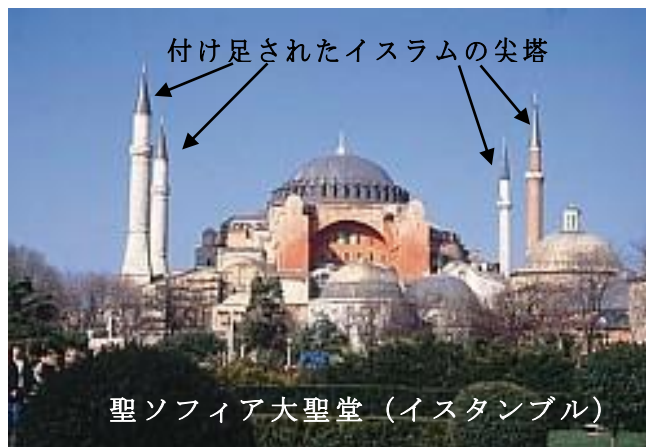
## 校長ESSAY (2学期始業式の話)

### 「いいかげん」は「良い加減」という話し

#### ートルコの聖ソフィア大聖堂に学ぶー

キリスト教の教会は、聖地エルサレムの方向(東方=オリエント Orient)を向いていなければなりません。ですから教会を建てるに当たっては、エルサレムの方向を正確に割り出し、地面に基準の線が引かれました。ちなみに、東に向けて地面に線を引くこの作業は「オリエンテーション orientation」と呼ばれました。物事を始めるときに行う準備作業のことを「オリエンテーション」というのは、ここからきています。

これに対してイスラム寺院(モスク)は、イスラム教の聖地メッカの方向を向いていなければなりません。メッカは、イスラム教の創始者ムハンマドの生地です。エルサレムとメッカでは、まったく方向が違うのですから、キリスト教の聖堂をイスラム教の寺院に使いまわすことなど、まず有り得ないことです。ところが、その有り得ないことが起こりました。1453年、イスラムの大帝国オスマン=トルコ帝国は、キリスト教の東ローマ帝国(ビザンツ帝国)の都コンスタンティノープルを攻略してこれを滅ぼし、そこにあったキリスト教の聖ソフィア大聖堂を接收しました。キリスト教の聖堂なんぞは壊してしまうと思いきや、何と聖ソフィア大聖堂の周りに四本の尖塔(ミナレット)を付けたし、そのままちゃっかりイスラム教寺院に転用したのです。

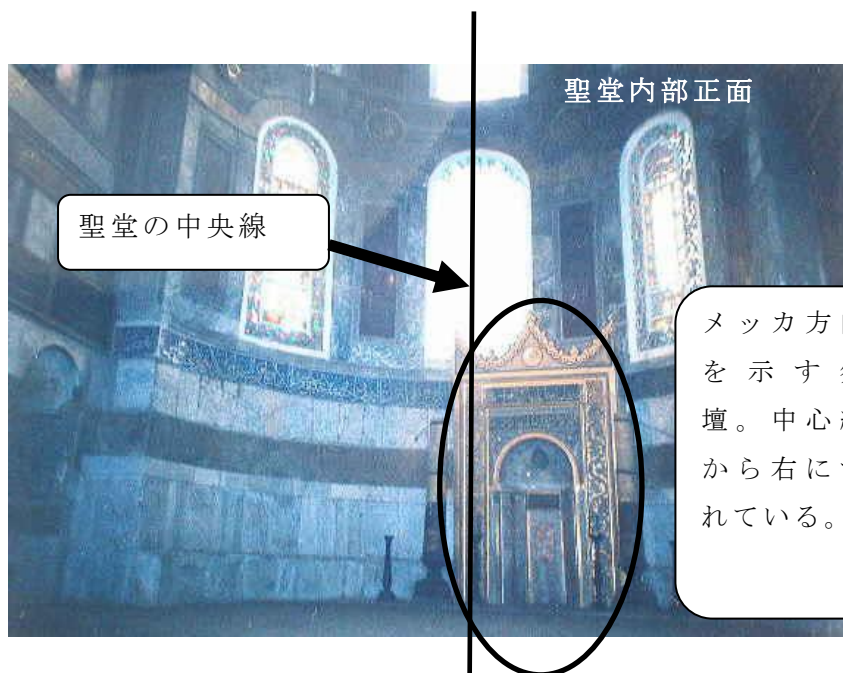
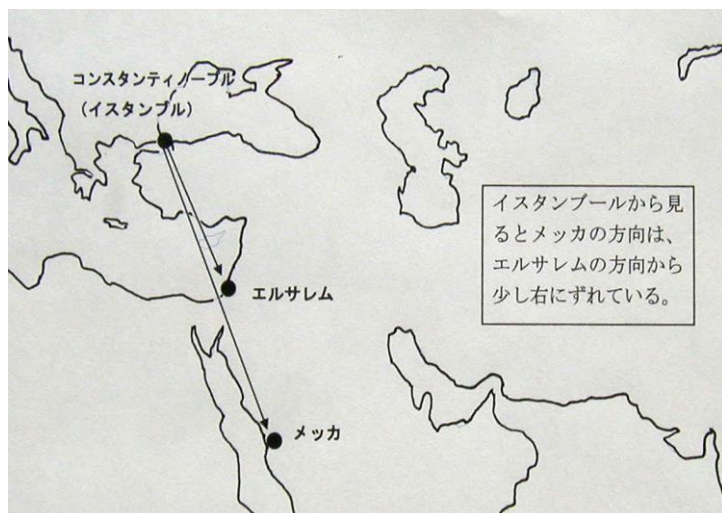


聖ソフィア大聖堂 (イスタンブル)

こんなことができたのは、コンスタンティノープルならではの特殊事情があったからです。コンスタンティノープルから見てエルサレムとメッカは、偶然同じ方向に位置していたのです。しかし、ぴったり一致していたわけではありません。コンスタンティノープルから見てメッカはエルサレム方向からわずかに右へずれています。もしオスマン＝トルコ帝国が原理主義的で頑固なイスラム国家だったら、おそらくこの少しのずれは許されず、聖ソフィア大聖堂は破壊されたかもしれません。ところがオスマン帝国は、宗教に関してある意味「いいかげんな」イスラム国家でした。だいたいメッカの方向を向いていればそれでいいじゃないか、というわけです。こうして聖ソフィア大聖堂は生き長らえて今に残り、世界遺産としてトルコ観光の目玉になっています。

かつてトルコ旅行をしたとき、聖ソフィア大聖堂を見学しました。本来ならモスクの中央に置かれるはずのメッカ方向を示す祭壇の位置を確認することが旅の目的の一つでしたが、祭壇が中心窓より少し右にずれて置かれているのを確認することができて満足しました。オスマン＝トルコ帝国では、寛容な宗教政策の下、さまざまな民族・宗教が共存・繁栄していました。それがオスマンの長期安定をもたらしたというのが歴史学者の一致した見解です。つまり、聖ソフィア大聖堂をつぶしていたら、オスマン＝トルコ帝国自身、もっと早くつぶれていたということです。

難しい世の中になってきました。日々さまざまな問題や対立が起こります。そのようなとき、自分が絶対に正しいと思っても自分の意見を一方的に主張するだけでは絶対うまくいきません。場合によっては「まあ、まあ」と言いながら対立点を曖昧にし、ある意味「いいかげん」に対応することも必要なのです。コップの水は目一杯だとすぐにこぼれてしま



います。九分目ぐらいがちょうどいいのです。立場や意見の違う相手とでも、まずは肩の力を抜いて対立点を棚上げし、いい関係をつくることで、さまざまな問題をしなやかに解決する糸口が見出せるのではないのでしょうか。「いいかげん」は、「良い加減」かもしれません。今こそ、我々は、「いいかげん」を「良い加減」に転換したオスマン＝トルコ帝国の智慧に学ぶべきだと思います。